

# 令和8年度 三豊市の予算

財政経営課 73-3010

## 令和8年度予算は、骨格予算でスタート

令和8年度当初予算は、1月の市長選に伴い、経常的経費や継続事業を中心とした骨格予算でスタートします。

一般会計予算総額は、前年度比89億円、率にして19.4%減の369億5,000万円を計上しました。

三豊市第2次総合計画に掲げる『One MITOYO ~心つながる豊かさ実感都市~』の実現に向け、重点プロジェクトに位置付けられる事業を中心に効果的・効率的で緊急性の高い実現可能な事務事業を予算化しました。

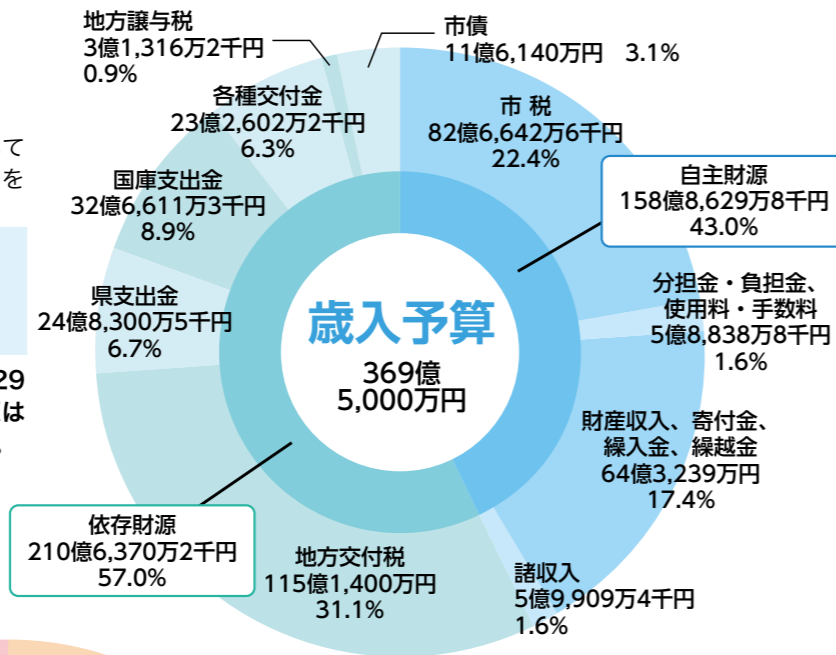
新たな政策的経費や新規事業は、今後補正予算に計上し、併せて本格予算とする予定です。

### 【歳入】

歳入予算のうち、使い道が決められていない一般財源として、主に次のものを計上しています。

- 市税 82億6,642万6千円
- 地方交付税 115億1,400万円
- 地方譲与税・交付金 26億3,918万4千円

市税などの自主財源が158億8,629万8千円、地方交付税などの依存財源は210億6,370万2千円となりました。



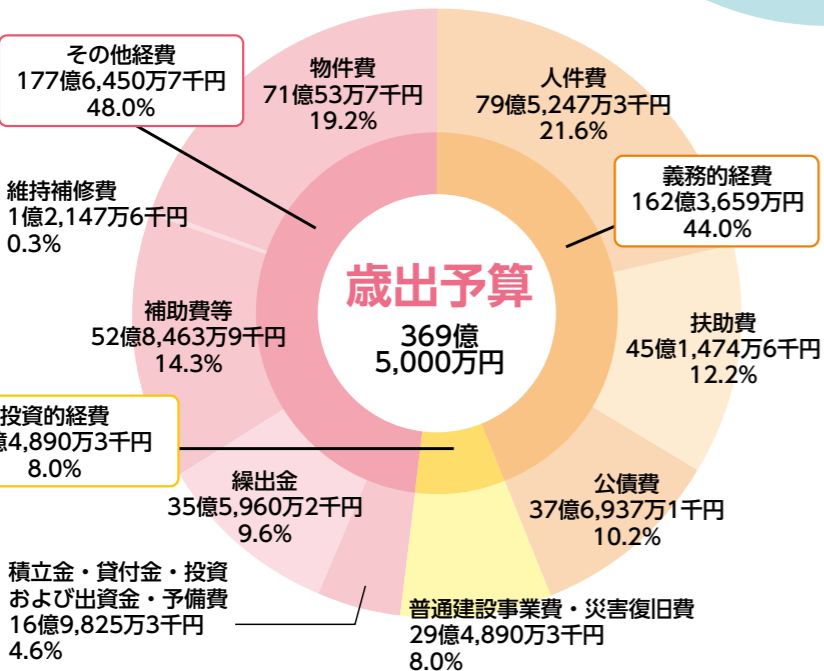
### 【歳出】

歳出予算のうち義務的経費では、次のものを計上しています。

- 人件費 79億5,247万3千円
- 扶助費 45億1,474万6千円
- 公債費 37億6,937万1千円

給与改定による人件費の増などにより義務的経費が前年度比増となっています。

投資的経費は29億4,890万3千円で、豊中地区新設小学校建設事業や松崎地区就学前施設（仮称）整備事業の完了に伴い、大きく減少しています。



三豊市誕生から20年、東日本大震災や新型コロナウイルス感染症など、予期せぬ巨大な危機に直面し続けてきました。このような激動の時代においても、人口減少などの課題と対峙し、『継続と進歩』をスローガンに掲げ、『健康』『教育』『三豊市独自の脱炭素社会』の三本柱を軸に据えながら、『革新』をキーワードに重点プロジェクトを推進してまいります。

また、高杉晋作の言葉「おもしろきこともなき世をおもしろく、すみなすものは心なりけり」を胸に、未来に向けて持続可能な三豊市を、共に創り上げていくことではありませんか。市民の皆さまの一層のご理解とご協力を重ねてお願い申し上げます。



▲施政方針の全文はこちらから

## 市政の『3本の柱』

### 健康

#### 長寿介護課

4月から、組織を改編し、高齢者に関する福祉業務と相談支援業務、介護保険業務を集約して、市民の皆さまの利便性を向上します。

#### 健診データの分析

デジタル技術を活用し、健診データなどを分析することで、生活習慣の改善や病気の早期発見につなげます。



### 教育

#### 「学びの場」の提供

##### ・放課後改革

さまざまな興味や関心に応じた「学びの場」を提供するとともに、地域教育ファンドを活用した部活動の地域展開をさらに進めます。

##### ・高瀬中学校夜間学級

多様な生徒の状況に応じて、教育活動を充実していくために、引き続き安定した運営に努めます。

##### ・国際バカロレア教育\*

令和9年度に詫間小学校が認定校になることをめざし、取り組みます。



▲夜間学級で実施された職業体験出前教室

### 市独自の脱炭素社会

#### ネイチャーポジティブ\*の推進

本市が誇る豊かな自然資源を「育てる」「守る」「増やす」ことで、地域の価値向上や持続可能な地域づくりに結び付けます。

#### 行政DX\* 「書かない・行かない」窓口の実現に向けた行政手続きのオンライン化

#### 防災 地域防災計画の修正および総合防災マップの改訂

#### 農業 高付加価値化への支援や、流通・加工・販売に至るまでのバリューチェーン\*全体の連携強化

\*国際バカロレア教育…探究的な学びで、主体性と思考力を伸ばす国際的な教育プログラム。

\*ネイチャーポジティブ…自然をこれ以上減らさず、回復・増加させていこうという考え方。

\*行政DX…国や自治体がデジタル技術を活用し、行政サービスや業務のやり方などを変えること。

\*バリューチェーン…企業の事業活動を「価値連鎖」として促して把握する考え方。

令和8年度施政方針と予算  
継続と進歩、そして「革新」へ